

(2) 第2次北九州市いきいき長寿プランの目標・施策の方向性と担当分野別会議

【基本目標】

高齢者がいきいきと、安心して、暮らせる共生のまちづくり～人生100年時代の到来～

目標	施策の方向性	メインで議論する分野別会議名
① いきいきと健康で、生涯現役で活躍できるまち	1 生きがい・社会参加・地域貢献の推進	介護予防・活躍推進に関する会議
	2 主体的な健康づくり・介護予防の促進	
② 高齢者と家族、地域がつながり、支え合うまち	1 見守り合い・支え合いの地域づくり	地域包括支援に関する会議
	2 総合的な認知症対策の推進	認知症施策推進に関する会議
	3 家族介護者への支援	地域包括支援に関する会議 認知症施策推進に関する会議
③ 住みたい場所で安心して暮らせるまち	1 地域支援体制(医療と介護の連携等)の強化	地域包括支援に関する会議
	2 介護サービス等の充実	介護保険に関する会議
	3 権利擁護・虐待防止の充実・強化	地域包括支援に関する会議
	4 安心して生活できる環境づくり	地域包括支援に関する会議 介護保険に関する会議

空 白

第2次北九州市いきいき長寿プラン 主な成果指標の実績

※表中の矢印は、基準値(R1)と比べて 前進:↑、後退:↓、差異1ポイント以内:→ で表示

施策の方向性		主な指標	R元年度	R4年度 (調査結果)	R5年度 目標	分析	
①【健やか】	いきいきと生活し、生涯活躍できる	1 生きがい・社会参加・地域貢献の推進	就労している高齢者の割合(一般高齢者)	29.8%	20.9% ↓	増加	8.9ポイント減少。R元年調査よりも回答者の年齢層が上がった影響も考えられる。(一般高齢者:80歳以上 R元年18.6%→43.5%) 一方、「働ける限りいつまでも」人の割合が54.7%と最も多く、年々、就労意欲の高い高齢者は増加していると考えられる。
			過去1年間に地域活動等に「参加したことがある」と答えた高齢者の割合(一般高齢者)	30.4%	25.1% ↓	増加	減少の理由は、コロナ過における外出自粛の影響も大きいと考えられる。一方、「自分のできる範囲で社会貢献したい」人の割合は63.8%あり、きっかけにより、活動参加増が期待できると考えられる。
		2 主体的な健康づくり・介護予防の促進による健康寿命の延伸	前期高齢者(65～74歳)の要介護認定率	5.6%	5.4% →	減少	前期高齢者の要介護認定者数は微減の見込み。前期高齢者総数も減少しており、認定率には大きな変化がない。 (令和4年度数値・令和5年3月速報値)
			健康づくりや介護予防のために取り組んでいることが「ある」と答えた高齢者の割合(一般高齢者)	62.6%	59.6% ↓	増加	減少してはいるものの健康状態がよい一般高齢者の約8割を占めていることから、コロナ過における外出自粛の影響が大きいことが考えられる。
②【支え合い】	高齢者とその家族、地域がつながる	1 見守り合い・支え合いの仕組みづくり	「何か困ったときに助け合える人」が近所にいる人の割合(一般高齢者)	30.3%	22.4% ↓	増加	7.9ポイント減少。「ほとんど付き合いがない」人の割合も増加しており、コロナ過による地域のつながりの希薄化が懸念される。
		2 総合的な認知症対策の推進	認知症になっても、自宅で生活を続けられるか不安と考える高齢者の割合(一般高齢者)	43.2%	42.2% →	減少	認知症に関する理解が深まることで、不安感が増すことも要因として考えられる。また、若年者についても不安に感じる割合が4割を超え、「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」人が6割を超えている。
		3 高齢者を支える家族への支援	家族の介護について「負担である」と考える人の割合(在宅高齢者の介護者)	40.5%	40.3% →	減少	様々な介護保険サービスが提供されているものの、負担感があると回答した介護者は多い。属性別にみると、概ね要介護度が高いほど負担感が大きい傾向にある。
③【安心】	住みたい場所で安心して暮らせる	1 身近な相談と地域支援体制の強化	地域包括支援センターを知っている高齢者の割合(一般高齢者)	41.8%	43.6% ↑	増加	増加の理由は、地域包括支援センター設置から17年が経過し、様々な取り組みによる認知度が高まっていると考えられる。特に在宅高齢者は、52.8%と高い。
		2 介護サービス等の充実	介護保険制度について、「よい」「どちらかといえばよい」と評価している高齢者の割合(在宅高齢者)	90.2%	90.6% →	増加	適切な介護保険サービスの提供による、介護保険制度に対する理解が広がっていることなどから、高い評価を得ていると考える。
		3 権利擁護・虐待防止の充実・強化	虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安が「ない」とする高齢者の割合(一般高齢者)	45.5%	40.9% ↓	増加	減少の理由は、全国的な高齢者を標的にした詐欺事件横行の影響等が大きいと考えられる。
		4 安心して生活できる環境づくり	移動に関して、「特に困っていることはない」とする高齢者の割合(一般高齢者)	57.2%	52.8% ↓	増加	コロナ過における外出自粛の影響(本人・同居家族の自動車や公共交通機関の利用減)や高齢者の免許返納等が影響していると考えられる。

空 白